

昭和東南海・昭和南海地震から70年

昭和東南海・昭和南海地震とは

昭和東南海地震とは、昭和19年12月7日に三重県沿岸で発生したマグニチュード7.9の地震です。日本が敗戦の色を濃くしていた時代であり、地震の発生そのものが秘密扱いでした。それだけに、昭和東南海地震に関しては、資料も新聞記事も少ないといわれています。愛知県では、市町村誌や体験談集など地域に残る記録を参考にして「歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド」を作成し、昭和東南海地震についての史跡も紹介していますので是非一度ご覧ください。(URL:http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html)

また、右の写真は昭和東南海地震による半田市内の被災状況のもので、半田市では、震度6以上で188名の方が死亡したとされています。

昭和南海地震とは、昭和21年12月21日に潮岬南方沖を震源とするマグニチュード8.0の地震で、南西日本一帯では地震動、津波による甚大な被害が発生しました。津波は、静岡県から九州にいたる海岸に襲来し、高知・三重・徳島沿岸で高さ4～6mに達しました。

参考 内閣府『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書』
愛知県防災会議「昭和19(1944)年12月7日東南海地震の被害と地震分布」
兵庫県『防災学習<津波編>』



半田市山方新田(元東洋紡西附近)『半田市提供』

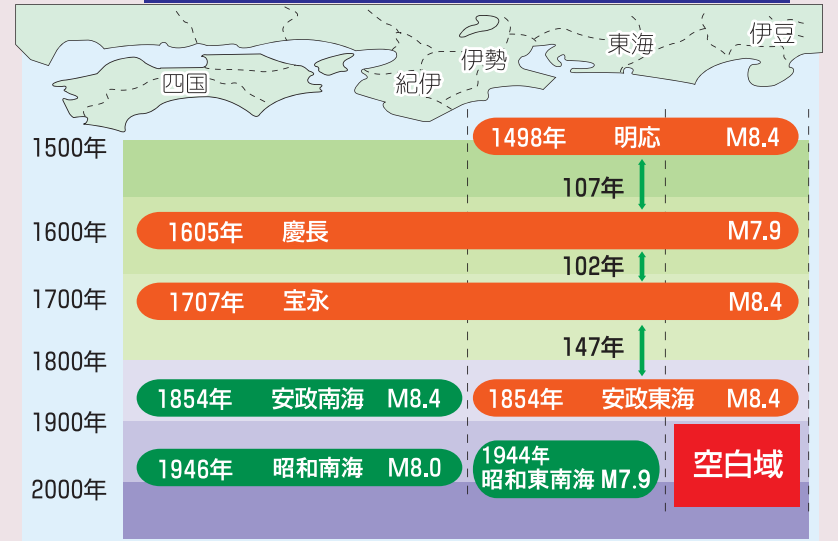
繰り返し起こる地震

日本列島の太平洋岸では、プレートの潜り込みによる地震が周期的に繰り返し起こっています。四国から伊豆にかけては、100年～150年の周期で、ほぼ同じ規模の地震が繰り返し起こっています。

1854年の安政東海地震・安政南海地震の後、1944年(昭和19年)の昭和東南海地震や1946年(昭和21年)の昭和南海地震が発生し、この地域の地震のエネルギーは放出されたと考えられております。しかし、静岡県の駿河湾から御前崎沖では、1854年の安政東海地震以来大地震がなく、地震のエネルギーが蓄積され(空白域と呼ばれる)、近い将来、巨大地震の発生が懸念されています。

◆「備えあれば憂いなし」この通信を読んでいるあなたは、すぐ備えに取りかかりましょう。

過去の主な地震



愛知県「防災・減災お役立ちガイド(地震編)」より



ワークショップの様子



紙ぶるを使った耐震性能実験の様子

防災・減災カレッジ開講!

災害被害の軽減に向けた県民運動を推進しているあいち防災協働社会推進協議会では、地域の産学官民が連携、協働して防災人材を育成する「防災・減災カレッジ(防災人材育成研修)」を平成24年度からスタートさせました。3回目となる今年度は、より多くの方に受講していただけるよう、実施回数を2回に増やし、「防災基礎研修」を名古屋大学と豊田市福祉センターの2か所で開催したのを皮切りに、災害時にボランティアコーディネーターとして活動したい方向けの「防災VCOコース」、地域防災の担い手を目指したい方向けの「地域防災コース」などの5つのコース(各コース3日間)と「啓発指導講座」「救命救急講座」など3つの選択講座(各講座半日間～1日間)を実施しました。

さらに、今年度は新たに名古屋市の防災指令センターや県の災害情報センター、免震構造等の防災関係施設を見学する防災・減災ツアーを実施しました。



防災・減災ツアー(愛知県庁 無線統制室)



防災基礎研修(名古屋大学)

防災・減災カレッジ協賛金のお願い

防災・減災カレッジは、参加者の受講料と企業や県民の皆様からの協賛金により運営しています。今後、持続的な防災人材育成の仕組みとしてこの事業を定着、発展させていくためには、企業や県民の皆様のご理解とご支援が必要です。地域の安全、安心と将来を担う防災人材育成の重要性、必要性をご理解の上、この事業にご協賛いただきますようお願い申し上げます。

協賛金に関して、詳しくは下記のホームページをご覧ください。

◎あいち防災協働社会推進協議会のホームページ

<http://www.pref.aichi.jp/0000003405.html>

◎愛知県防災局防災危機管理課 ☎052(954)6190

このセミナーを今後も継続していくことで、いつか必ずやってくる大地震などに対して、地域の防災力の向上に貢献できる若い人材が次々と育ち、防災の輪が広がっていくことを期待しています。

愛知県教育委員会と愛知県防災局では、平成22年度から、名古屋大学と連携し、「高校生防災セミナー」を開催しています。セミナーには、毎年県内の15校が参加し、災害に関する基礎知識や防災・減災、災害発生時の対応等について、名古屋大学の教員やNPO職員、医師、防災ボランティア、行政の防災担当者等を講師として、講義・演習に取り組みます。それらの学びを通して、参加した生徒達は、学校周辺の防災ハザードマップの作成、過去の地震経験者からの聴き取り調査、学校の体育館を利用した避難所体験といった普及実践活動を行います。

昨年度からの参加15校

<名古屋市立> 山田 <私立> 中京大学附属中京、誠信
<県立> 旭丘、松蔭、瀬戸窯業、小牧南、木曾川、佐織工業、横須賀、豊野、岡崎、知立東、豊橋工業、蒲郡(順不同)

今年度からの参加15校

<名古屋市立> 工芸 <私立> 清林館、岡崎城西
<県立> 明和、熱田、春日井西、尾北、一宮北、佐屋、半田商業、松平、岡崎西、西尾東、豊橋商業、蒲郡東(順不同)

愛知県・名古屋市総合防災訓練

平成26年10月27日(月)、名古屋駅とその周辺及びノリタケの森で、愛知県と名古屋市の共催により、防災関係機関、駅周辺の事業所など74の機関から、総勢約2,700名が参加した総合防災訓練を実施しました。

県が名古屋市と共催で地震想定の実働訓練を実施するのは平成17年度以来9年ぶり、名古屋駅周辺を会場として行うのは、昭和56年度以来、実に33年ぶりとなります。

今回の訓練では、南海トラフ巨大地震により名古屋市内で最大震度7の地震が発生し、鉄道等の公共交通機関がストップして多数の滞留者が発生した状況を想定し、帰宅困難者への支援対策に重点を置いたものとなりました。

また、駅前の公道及び実際のビルを使って、建物内に取り残された方を救出する訓練など、県民の方々が実際に事業活動や生活を送る場を会場とすることで、例年にも増して、実践的な訓練を行うことができました。

東日本大震災では、首都圏で多数の帰宅困難者が発生しました。今回の訓練では、そうしたことを踏まえ、また、スマートフォンなどの情報端末の普及を背景に、ツイッターやフェイスブックを活用して、帰宅困難者の方自身で一時退避場所の開設情報を入手し、適切な場所に移動していただく取組を行いました。



被災車両からの救出救助訓練(名駅通)



帰宅困難者の受入・帰宅支援訓練(ノリタケの森)

高大連携高校生防災教育推進事業

「高校生防災セミナー」